

日本の心と禅を追及して30年

ブライアン・バークガフニ
筆記 藤川 卓爾(S42卒)

本年4月の長崎における京機会春季大会で長崎総合科学大学のブライアン・バークガフニ教授に「東西透かし彫り - 長崎の和華蘭文化 - 」と題して講演していただきました。本稿は平成17年11月9日(水)長崎仏教連合会主催の仏教文化講演会における同教授の講演を藤川が筆記したものです(講演者のレビュー済)。

<講師紹介> : 興福寺住職による。 S25年カナダ生まれ、寅年、欧州、インド経由来日、S48年入門、S57年長崎へ、H4県民表彰受賞、H8年長崎総合科学大学教授、現在に至る。

(1) Introduction

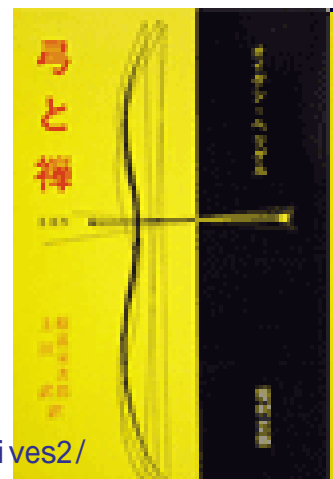
- ・寅年と紹介されたが、星座は獅子座で、猫をかぶっている。
- ・日本語のマスターのコツは日本人の父母を持つこと。日本語を極めること、禅を極めることは難しい。
- ・禅に興味を持ったのは、20歳の大学生のとき。医者になりたかったが、自分では自然科学者の素質がないと感じていた。歴史や哲学に興味があった。親の希望・期待が負担であった。
- ・ある授業中に、教授が人間の心臓は4つの室があり、1分間に60～70回動くといったとき、いつも変わった質問をする同級生が「心臓はどうして動くのか」と質問をした。教授は「馬鹿な質問をするな。図書館へ行け」といって、質問には答えずに講義を続けた。これに対して、近代医学の限界を感じた。
- ・偶々手にとった仏教の本を読んでなるほどと思った。業(カルマ)について書いてあり、善 善、悪 悪と合理的であり、真実・新鮮さを感じて、仏



平成17年11月9日 仏教文化講演会

教の本を読んだ。

- ・東大で教えていたオイゲン・ヘリゲルの「弓と禅」には次のことが書かれていた。「弓道」で矢を放つ行為は、わざと放つな、自然に矢が離れるのを待て、葉に雨が降って水がたまり、あるところに来たら葉が撓んで雨水が落ちるように 心臓がどうして動くかに一致。



http://www.goodpic.com/mt/archives2/2007/11/post_217.html

(2) 旅立ち

- ・大学を休学してカナダ発、最も安い旅として先ず英国に渡り、陸路オランダからバス・汽車を乗り継いでインドに着いた。
- ・インドで放浪し、ヨガの師を求めて半年、ヒマラヤの麓でヒンズー教の先生に会った。瞑想のコツを教えて欲しいといったら、「誰も止めませんからどうぞ」といわれた。するなら今ここでという意味であった。
- ・日本の教育で「塾」がはやりだが、勉強が面白いからではなく、どこか他のところ(よい学校・大学)に行くためにやっている。
- ・インドで一大決心をして、「カナダに戻らずに日本へ行くことにした」と親に手紙を書いた。インドからシンガポールを経由して日本へ行く最も安い東ドイツの貨物船に乗った。
- ・マレーシアのマラッカ海峡で日本の留学から帰る途中のフランス人留学生に会った。奈良教育大の阿部 正雄先生を紹介してくれた。それ以外日本に関するデータは何もなしで日本に来た。まさに「縁」、偶然でもない、運命でもない、ちょうどその中間。阿部先生が山岸 善来老師を紹介してくれた。

(3) 日本上陸

- ・S47.7.21 船から下りて初めて日本の土を踏んだ。第一に困ったのは言葉。店で歯磨粉を下さいと英語でいったが、店の人が両手を顔の前で「X」字型に合わせるゼスチュアをしたのが分からなかった。その他、日本人には独特のしぐさがあるが全く分からない。「言語道断」という言葉があるが、言葉が通じる・コミュニケーションがとれるのはどんなに有難いことか痛感した。

(4) 山岸老師との出会い

- ・山岸老師は妙心寺派の専門道場で17年間修行した。臨済宗はマスメディアを入れない。鎌倉時代以来続いている。外国人の入門は初めて、しかし寺ではほとんど話をしないので言葉のハンディーは少ない。

・愛媛県の仏心寺で2年間山岸老師に師事した。仏教について質問しても答えは「考えなくてよい」、只々草取り、薪割りの仕方のみ。おかげで履物の脱ぎ方は狂いがないようになった。

・「はい」という言葉に2年かかった。本堂の掃除で、渡り廊下を拭いているとき、老師が「おい」と呼んだので、「はい」と答えて老師のところへ行ったら、「馬



仏心寺 <http://poreporetraveler.blog96.fc2.com/blog-entry-106.html>

鹿」と怒られた。老師は「脚立た」と。そういわれても何のことか分からない。数年後に意味が分かった。「おい」という言葉の中に「脚立」を想像・察知してほしい。それができないのは集中してないから。テレパシーでも超能力でもない。

(つづく)

—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

また、原稿が切れてきました。投稿、お願い致します。

【要領】

宛先は京機会の e-mail : jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願い致します。

写真を送ってくる時、*.jpg ファイルをPDF化して送ってくる事は止めてください。 ファイルサイズの縮小の役には立ちませんし、*.jpg そのままの方が遙かに処理しやすいので、宜しくお願い申し上げます。

板谷峠のつばさ号

小池有二 (S47 卒)

夏に米沢の旧友を訪ねて東北旅行しました。自動車で行きましたので、山形新幹線の板谷駅に寄ってつばさ号の走行を見物しました。

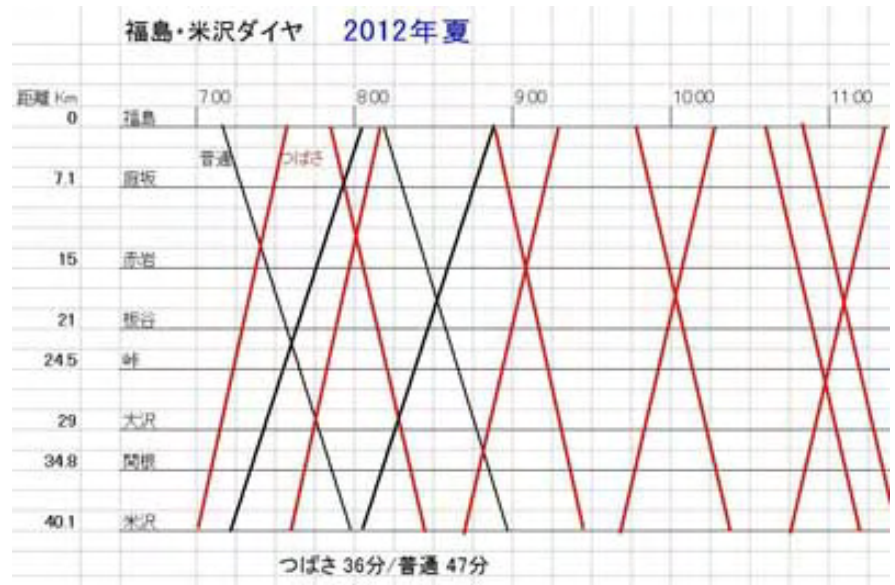
山形新幹線はJR 東日本のドル箱路線であり、技術と企画の秀逸さを感じます。奥羽本線の福島・米沢間の板谷峠は有名な山岳路線で

在来線時代はスイッチバック駅を4駅(赤岩、板谷、峠、大沢)設けて旅客の乗降と、退避、追い越しをしていました。現在は狭軌から標準軌道に軌道拡張し、貨物廃止、主力はミニ新幹線つばさ号という運用がされています。架線電源は交流20KV、つばさ号はVVVFインバータを介して交流モータ駆動です。高速鉄道は設備コストの安い交流で架線給電、動力車で交直交の2段階変換という形式がスタンダードになったようです。

板谷駅で待っていると福島方からつばさ号が勾配を駆け上がってきました。スピードはけっこう速いです。線路脇に36 / 1000の勾配票が見えます。これはJRの現流路線の中で最大級のきつい勾配です。

福島・米沢間40Kmの所要時間はつばさ号は36分、普通電車は47分です。前記4駅には待避線がないので追い越しはできません。普通電車も新型を投入して頑張っているようです。

時刻表からダイヤを線引きして見ると図のようになります。つばさ号発車後まもなく米沢を発車した普通列車は次のつばさ号に追いつかれる前に福島へ入線という様子が見えます。速度の遅い貨物列車が混在するところはいかないでしょう。



道中、東北中央自動車道(福島～米沢)の工事が見えました。2017年開通予定だそうです。これが出来ると山形新幹線のコンペティタは飛行機から高速バスに変わるでしょうか。鉄道側には新板谷トンネルという案があって地元側はこれにも要望が強いようです。



大阪あそ歩

(幹事：坂口保彦、S54)

第一回京機カフェ；大阪あそ歩を10月13日(土)13:30から行いました。「大阪あそ歩」は一般社団法人大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会が事務局を務める大阪のまちを歩いて、そのまちの歴史やそのまちの人々との出会いを楽しむものです。コースは300コース用意されていて、参加者を一般公募しています。

今回は、京機会が大阪市大正区の平尾・恩加島コースをオーダーし、ご家族を含め12名で実施しました。スタートは大阪市バス「平尾」バス停でサンクス平尾商店街～平尾公園～大阪俘虜収容所碑～南恩加島公園～天満宮～千本松大橋～千本松渡船で徒歩約2時間でしたが、第一次世界大戦でドイツ人の捕虜を収容した俘虜収容所では捕虜は自由に行動できたこと、この中にユーハイム氏がいて後に神戸で洋菓子屋を始めたこと、西成区千本の地名は大阪湾に突き出た堤防に千本の松を植えたことから名づけられたなどを学びました。

また、懇親会は沖縄料理店「うるま御殿」で行い、楽しい一日を過ごすことができました。



昭和53年卒学年同窓会ご報告

平成24年10月13日に京都百万遍の「レストランまどい」で、卒業以来初の昭和53年卒学年同窓会を行い、21名の同窓生が集まりました。

35年ぶりの再会という人も多く、また学生時代はクラスが違っていたため、初めて話をする人も居られましたが、それはそれで新たな交流も生まれ、2時間半の時間が瞬く間に過ぎ去る、楽しいひと時を過ごしました。

一人ひとり近況報告をしました。孫の話題もちらほら出ていました。宴の終わりには、皆で肩を組んで琵琶湖周航の歌を合唱しました。

出席者は下記のとおりです。(順不同、敬称略)

石山拓二、鎌居健一郎、木村忠司、沢田祐造、白井政雄、住田守、仁張修、三浦憲二、森敏雄、安田昌司、川崎博也、飯田豊、奥平有三、上郡龍馬、神田誠、江夏裕、櫻井隆、長野寛之、野村真三、山田晃、上原一浩



「さん、・・・なさっておられるのではございませんか、と申し上げました。」

「何言ってるだよ、ふざけんじゃねえ。」(に向かって)

をTVで聞いて、敬語など使ったことのない新入社員と同じ混乱を起こしている場面に吹き出した。ほぼお判りだろう。一寸、古くなってしまいましたが、発言の主はフューザーの小嶋社長、 は下請け野郎程度の意識しかない姉葉建築士、 は同じくイーホームズの藤田社長である。 は、あろうことか衆院国土交通委の参考人質疑の場で、「バカヤロツ」とともに発言した言葉で、 は、後日取材での発言である。

あの場で粗野で険悪な表情で発言するのは彼の本性である。そのことを散々批難されて以来、誰かの助言で眼鏡も含む表情の演出を覚え、粗野な表現を改めてマスコミに顔を出していたが、やはり地が現われた。普段見下し怒鳴りつけていた筈の人物に対して最上級の敬語を使って対応していたことになるが、人を敬うことを知らない者に敬語は解らない。

INFO

詳細はPDF版でご覧下さい。

1 . 高価格な車が「高級な良品」だった時代は過ぎ去ったのか？

JBPress 技術立国・日本論

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/36261>

最近、新旧のポルシェを乗り較べる機会に恵まれた。ともに「911」という伝統の車名を受け継ぐが、新しい方は、2011年にモデルチェンジしたばかりの、ポルシェ社のタイプナンバーとしては「991型」のカレラS、古い方は20年前の「964型」のカレラ2という2台である。

2 . 第 2 章に突入した欧州車のダウンサイジング

出遅れた日本勢、巻き返しは可能か？

JBPress

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/36275>

2012年1月の当欄で、私は日本メーカーが得意とするハイブリッド車（HV）が“世界の中心ではない”という趣旨の記事を書いた。この中では、欧州や米国のメーカーが排気量を抑えたエンジンにターボなど過給器を加え、ダウンサイジング化を加速させていると指摘した。今回は、このダウンサイジング革命が第2章のフェーズに入ったことに触れる。同時に、日本メーカーの出遅れに警鐘を鳴らす。

3 . シリコンバレーを電気自動車の中心地に

Tech-on!

<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20121005/244256/>

私がEV（電気自動車）の「LEAF」に乗り始めてから1年と3カ月が過ぎる。もう、EVを運転することが生活に溶け込んでいる。幸い、今までに運転途中でバッテリー切れになった経験はないが、残りの走行可能距離が14マイル（22.5km）しかない状態で自宅に到着したことはあった。今では、LEAFの距離制限が身についてきたように思う。

4 . エコカー大戦争！

DIAMOND online

4-1 一般道を貸し切って“走り”中心の試乗会を開催

<http://diamond.jp/articles/-/25905>

箱根の山は、天下の険。天和五年（1619年）、江戸幕府は箱根関所を設置。全国54カ所に及んだ関所のなかで事実上の江戸への入口となる、東海道と相模国の接点、箱根の存在感は大きかった。

4-2 歴史的第一歩「LNG産消会議」の現場で感じた米政府が描く天然ガス車戦略の“思惑”

<http://diamond.jp/articles/-/25939>

日本は、世界最大のLNG（Liquefied Natural Gas / 液化天然ガス）輸入国だ。東京電力・福島第一原子力発電所の事故後、全国各地で原発の再稼働が社会問題化するなか、電力源として火力発電への転換が進んだ。そのなかでLNGの輸入量は拡大。2010年の7000万トンから、2012年は9000万トン程度になる見込みだ。天然ガスに関して、筆者は近年、日米各地で取材を進めている。

5 . 政府が環境対応車の新計画 天然ガス車が170万台に NTT データ経研

http://www.keieiken.co.jp/pub/articles/2012/pdf/2012-10nk_eco.pdf

6 . 活況に沸くインドネシア自動車産業

JBPress Financial Times

タイに続き日本車の一大生産・輸出拠点に

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/36296>

交通渋滞に悩むインドネシアの首都ジャカルタに、車が数珠つなぎになって動かない長蛇の列が良い兆しである場所が1つある。タンジュンプリオク港の自動車ターミナルだ。日本の自動車メーカーが東南アジアの他の新興国やアフリカ、中東を開拓するために、インドネシアの強力な製造拠点を足場にしており、このジャカルタの主要港は輸出の急増に対処するのに苦労しているのだ。

7 . スパコンを駆使した先端ナノテク採用

DIAMOND online

日本がリードする「低燃費タイヤ」技術の最前線

<http://diamond.jp/articles/-/25775>

燃料費の高騰、高止まりはドライバーにとって頭の痛い問題。だから燃費のいいエコカーに乗り換えるユーザーも多いわけだが、クルマを換えずに燃費を良くする方法として注目を集めつつあるのが“低燃費タイヤ”だ。タイヤ燃費性能の横並び比較が可能なラベリング制度の導入で、各社の技術競争は激しさを増している。住友ゴム工業が次世代を見据えた環境タイヤ技術セミナーで明らかにしたこと、それはスーパーコンピュータ「京」の徹底活用だった。

8 . ドライブ旅行促進による地域の活性化

日本自動車工業会

JAMAGAZINE 2012.9

マイカー利用者の意見とJAFの取り組み

<http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/201209/index.html>

<http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/201209/01.html>

快適ドライブとカーテレマティクスの進化 茂木 康之

<http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/201209/03.html>

連載/クルマの楽しさ、素晴らしさとは 第53回

「はたらくクルマ」が魅力的なわけ

御堀 直嗣

<http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/201209/05.html>

記者の窓「円高にありて円安を思う」 時事通信社 渡辺 毅

<http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/201209/06.html>



報告

ご挨拶

涼しさも寒さに変わり、日だまりの恋しい季節となりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。KARTは現在も2013年度車両の設計を行っている最中です。バラバラだったパーツが、CAD上で徐々に車両としての形になりつつあります。また、多くの方から質問頂いた大会でのエンデュランスリタイアの原因ですが、チーム内ではほぼ突き止められております。最後に電装系部品の試験が残っているため、この試験が終われば、皆様にリタイアの原因とその対策について正式にご報告ができると思います。今しばらくお待ちください。



CAD上でアセンブリし検討

レーシングカート走行練習

ドライバー陣でレーシングカートを用いての練習走行を行いました。ヘルメットに小型カメラを取付け、走行中の車両の挙動や各ドライバーの運転の違いを映像で確認しつつ、タイムの縮め方や車両のコントロール方法を学びました。ドライバーと車両、どちらが足を引っ張っても動的競技の成績は伸びません。最若手の2回生ドライバーも、1日でタイムを3秒縮める目覚ましい成長を見せました。ドライバー技量向上のため、今後もレーシングカートでの練習は定期的に行っていきたいと思っております。

ヤマハ発動機様 活動報告会

25日には、マシンのエンジンをご支援くださっている静岡県のヤマハ発動機様を訪問し、2012年度の活動報告及び2013年度の活動計画報告を行って参りました。まず2012年度プロジェクトリーダーの小川が、2012年度活動概要の報告を行い、リタイア原因に関して現時点で判明している点を説明しました。

ヤマハ発動機の皆様も2011年度・2012年度ともに大きな期待を寄せてくださっていただけに、2年連続でのリタイアという結果報告は非常に残念なものとなってしまいました。ただ、現状把握しているリタイアの原因について、ヤマハ発動機のエンジニアの皆様と意見を交わすことができ、多くの情報を頂くことが出来ました。続いて2013年度プロジェクトリーダーの大橋が、2013年度の活動計画について、2012年度の反省を受けて2度とリタイアを繰り返さないための徹底したチーム管理と車両管理の計画を中心に報告を行いました。ヤマハ発動機の皆様にも激励のお言葉を頂き、一同勝利への決意をより固くして帰って参りました。



レーシングカートでの練習



平成24年度京機会秋季大会・総会開催のご案内

本大会を下記により開催いたしますので、出席下さいますようご案内申し上げます。ご家族の参加も歓迎いたします。

日時：平成24年12月8日(土) 11:00～19:30

会場：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール, 国際交流ホール 工学部物理系校舎

行事：

1. <特別企画> 研究室ポスター展示 11:00～14:00 (会場：工学部物理系校舎)

桂キャンパス移転を前に、一昨年好評いただきました研究室ポスター展をアンコール開催します。

2. 京機会総会 14:00～



3. さよなら吉田キャンパス「思い出の光景」 15:10～

100年を超える期間に亘り、皆様の青春時代の舞台となった吉田キャンパス…

京都大学・京機会の愛蔵写真や皆様から寄せられた秘蔵写真を、映像化しご覧いただきます。上映後は、会場参加者全員での回顧座談会といたします。

当日、ご出席の皆様からの当時の秘蔵・爆笑エピソードなどのご発言をお待ちしております。

4. 特別講演会 16:20～

「2012年 機械遺産認定 ウォシュレット 開発物語 ～ 日本トイレの進化～」

中村 久志 氏 (S56) TOTO (株)

1980年初代に誕生したウォシュレットG。昭和のトイレ事情やテレビCM「おしりだって洗ってほしい」の反響など当時の世相も交え、最新の環境配慮の面など、2012年日本機械学会 機械遺産に認定されるまでのウォシュレットの技術・歴史を映像を交え分かりやすくお話しいたします。



5. 桂キャンパスへの誘い^{いざな} 17:35～

桂キャンパスならびに機械系教室の最新情報をご紹介します。

6. 懇親会 18:00～

会場：京都大学百周年時計台記念館、国際交流ホール

会費：一般会員 4,000円 会員ご家族は無料

学生会員 1,000円 (11/28までの事前入金の場合、500円の特別優待が決定！)

- **ご家族の参加も歓迎いたします。** ご家族参加の場合は、大会参加申込時に、その旨ご回答下さい。
- 自由な服装でお越しください。
- **11月28日(水)までに、京機会HP (<http://www.keikikai.jp/>)からの参加申込をお願いします。**

京機会・京機学生会SMILE 学生と先輩との交流会のお知らせ

学生会員諸君！

学生会員の多数の参加をお待ちしています。
講演会以外の詳細情報は、京機会からのE-mailや
物理系校舎ロビーポスターにて確認下さい。

日時：平成24年12月8日(土)

交流会：10:30～15:00

懇親会までは、上記講演会でお楽しみ下さい！

懇親会：18:00～19:30

京機会秋季大会懇親会と合同開催です
11/28までの申込みなら懇親会費は500円！

会場：京都大学百周年時計台記念館
国際交流ホール・記念館ホール



～ 学生と先輩との交流会とは ～

本交流会は、学生が社会における「現実」を知る教育活動の一環として、1999年より実施しております。本会は、京機会会員である先輩から、在学生に対し、大学における勉強と実社会との仕事の関係、仕事のやりがい・心構えなどを話していただき、例年、学生の関心も大変高く、勉学の動機づけや将来の方向付けにも少なからず寄与しております。毎年、約100社の企業に参加いただき、各社からも好評をいただいております。

